

自分たちで決めたこと(第2次市行革大綱)も 守らないのでは新市建設計画も心配です

行政組織条例「改正」

橋爪議員が反対討論

22日、行政組織条例の「全部改正」の採決が行われましたが、それに先立って、党議員団を代表して橋爪法一議員が反対討論を行いました。その概要をお知らせします。

行政改革の基本から

はずれている

反対理由の第一は、行政改革、機構改革の基本からはずれていることです。

合併に反対だった人も賛成だった人も、合併した今、「よい上越市」をつくるために、ムダと不合理を一掃する、そして簡素で効率的な組織をつくらなければなりません。しかし今回の組織改革はそれとは逆の方向になっています。

行革大綱からもはずれている

反対理由の第二は、みなさんが16年3月に決めた「第2次上越市行政改革大綱」に照らしなくてもずれているということです。

行革大綱推進計画には、平成16年～18年に何をすべきかということで、市民との協働によるまちづくり、財政の健全化、組織機構の適正化と職員能力の開発、の三つが書かれている。その通りです。この内、組織機構改革で何をするかというと、簡素で機能的な組織改革を実施する、職員を有効に配置し係制を廃止しグループ制を採用する、縦割り排除のために複数の組織に横断する総合的な調整機構を設けるとなっていますが、そうなっていない。

市民の声を聞いていない

第三の反対理由は、市民の声を聞いていないことです。行革市民会議(仮称)で市民の声を聞くということになっているのに聞いていない。だから市民の目線で見ると信じられないようなことが起きています。

例えば雪対策室、道路管理課の下に置かれています。道路除雪、屋根雪の処理、民家周辺の排雪、高齢化が進む中、これは力をいれてやってもらいたい。しかし「雪対策」は、これだけではありません。克雪の問題だけでなく、利雪もしっかりと考えてもらいたい。安塚や大島ではすばらしい利雪の取り組みを行っています。そういったこともちゃんとできる組織にしなければならぬでしょう。それをやらぬで同意を求められてもダメです。

行政組織条例は、採決の結果、日本共産党議員団が反対しただけで、賛成多数で可決されました。



議員団を代表して反対討論する橋爪法一議員

日本共産党上越市議団ニュース

5 2005年3月27日

| | | | |
|------|------|----------|---------|
| 連絡先 | 杉本敏宏 | 524-3787 | (東本町5) |
| | 樋口良子 | 544-6802 | (中門前3) |
| | 橋爪法一 | 548-3628 | (吉川区代石) |
| 事務局長 | 上野公悦 | 530-2203 | (頸城区) |

市議会質問ダイジェスト

紙おむつ助成改善を要求

紙おむつ助成事業は合併によって上越市の制度に統一されました。その結果、頸城区、安塚区などは町村時代よりも半分に減らされてしまいました。合併によってサービスが低下した典型的な例です。

樋口良子議員は、厚生常任委員会の審議のなかで、旧町村の施策の優れた点に学び、新上越市でのこの事業の水準引き上げを要求しました。これに対

して行政側は、実態を調べ、前向きに検討すると答弁しました。

現在、上越市では、紙おむつ助成として、所得税非課税世帯については月額3500円、所得税課税世帯は月額1750円の支援を行っています。



苗代除雪費補助、災害救助法適用時の水準で助成へ

橋爪議員は文教経済常任委員会で、山間地の農家から要望が出されている苗代除雪について取り上げました。

同議員は、小池産業環境部長が「雪害に準じた」対応を考えていると繰り返し述べたことに対し、「今冬の積雪は豪雪だ。苗代除雪は障害物除去であり、雪害対策として取り組むべきだ。（したがって）補助も災害救助法が適用になった過去の水準を下回ることのないように」と発言しました。市が取り組むとした「緊急苗代消雪促進対策事業」は、4月1日の時点で（苗代、育苗ハウスの場所で）積雪が1メートルを超えている場合、10アール当たり5万6000円の2分の1を補助するというものです。

小池部長は、最終的には、「雪害対策として実施する」と答え、救助法適用時の水準を下回らないことについても約束しました。橋爪議員の質問が終わったら、2人の山間部出身の保守系議員が同議員に近寄ってきて、握手を求めたり、「ありがとう」という声をかけていました。

もっと市民に読まれる広報をめざせ

合併して「広報じょうえつ」のページ数が多くなったのですが、内容を見ると、「お知らせ」ばかりです。そこには住民の顔が見えません。

総務常任委員会で杉本議員は、「合併したばかりですから、お知らせしたいことがたくさんあるのはわかる。しかし広報も読んでもらわなければ、お知らせも伝わらない。いまの形では、『ミミ箱行き。それでは皆さんの苦勞が報いられない。市民から読んでもらえるような工夫が必要だ』と主張しました。また、橋爪議員も『「広報じょうえつ」は行政と市民が情報を共有してまちづくりをしていくうえで重要な役割を果たす。そういう自覚のもとに編集すべき。旧13町村の広報に学んでほしい』と訴えました。担当課長は、「読まれるような広報をめざして検討します。」という答弁しました。

【日本共産党議員団事務局長として前頸城村議の上野公悦（うえのこうえつ）さんから頑張っていたただくことになりました。よろしく願います。】



春間近の雑木林



ソリに乗って遊ぶ子どもたち